

様式 1 3

会派視察研修計画書

令和元年 6 月 2 4 日

碧南市議会議長 様

会派名 新しい碧南を作る会

代表者名 鏑本 達朗 印

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	鏑本 達朗		
日 時	令和元年 7 月 2 3 日（火）～令和元年 7 月 2 5 日（木）		
視 察 先	青森県青森市、弘前市、三沢市		
研 修 内 容	青森市役所：就労支援事業について 弘前市役所：国立病院機構弘前病院と弘前市立病院の統合 三沢市役所：三沢コミュニティバス「ミーバス」について		
日 程	青森市役所：7 月 2 3 日（火）午後 1 時 3 0 分～ 弘前市役所：2 4 日（水）午後 1 時～ 三沢市役所：2 5 日（木）9 時 1 5 分～		
交 通 手 段	<input checked="" type="checkbox"/> 公共交通機関 (電車・新幹線)	<input type="checkbox"/> 公共交通機関 (飛行機)	<input type="checkbox"/> 自家用車

※該当するものにチェック☑してください

会派視察研修報告書

令和元年 7月29日

碧南市議会議長 様

会派名 新しい碧南をつくる会

代表者名 鏑本 達朗

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 1 分の視察研修報告書を添付いたします。

参加議員	鏑本達朗
日 時	令和元年 7月23日（火）～令和元年 7月25日（木）
視 察 先	青森県青森市、弘前市、三沢市
研 修 内 容	青森市；障害者総合支援法における就労系障がい者サービスについて 弘前市；国立病院機構弘前病院と弘前市立病院の統合について 三沢市；コミュニティーバス「みーばす」について
日 程	7月23日（火） 名古屋空港→青森空港→青森駅→青森市役所13：30～15：30 宿泊ホテル；ルートインホテル駅前Tel017-731-3611 7月24日（水） 青森駅→弘前駅→弘前市役所13：00～15：00→弘前駅→青森駅 宿泊ホテル；青森国際ホテルTel017-722-4321 7月25日（木）

	青森駅→三沢駅→三沢市役所9：30～11：00→三沢駅→青森駅→ 青森空港→名古屋空港
備 考	

※ 相手方から収受した資料の写しを添付してください。

視察研修成果報告書

令和元年 7月29日

議員氏名 鏑本 達朗

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 令和元年 7月23日（火）～令和元年 7月25日（木）
- 2 視察先 青森県青森市、弘前市、三沢市
- 3 視察の種類 会派・新しい碧南をつくる会
- 4 視察の成果等

令和新風会とともに、青森県の青森市、弘前市、三沢市の3市への視察に行ってきました。

まず、初日、青森市の障害者総合支援法における就労系障がい者サービスと障がい者福祉ショップ「福祉の店うらら」の現地視察をしてきました。

サービス事業者の推移は、令和元年7月1日現在、就労移行支援7事業所、就労継続支援A型24事業所、就労継続支援B型42事業所、生活介護37事業所、日中一次支援35事業所で、利用状況は、平成30年度延べ人数として、就労移行支援712人、就労継続支援A型4,365人、就労継続支援B型8,078人、生活介護11,689人、日中一時支援1,616人となっており、事業所は横ばい、利用者は増える傾向にあるとのことでした。手厚い障がい者就労支援がなされていると感じました。その結果、平成29年度では、就労継続支援A型からの一般就労実績は、就職者数が9人、定着者が5人となっています。市のサービスとして日中一時支援事業が市内30事業所で行われており、人口規模の違いがあれ、碧南市より充実したサービスの提供がなされていました。

また、障害者福祉ショップ「福祉の店うらら」が、市の単独事業で運営されていました。平成21年7月25日に開設され、現在は、マエダガーラモール店の1階にありました。従事者は就労移行支援事業の利用者の障害者3名で、指導者としてマネージャー1名、サブマネージャー1名で運営されているとのことでした。障がい者が作ったものを障がい者が販売するという形をとっており、駅前庁舎での出張販売「うららマルシェ」も行っているということで、合わせて、年間販売実績は、平成30年度では4,347,185円となっていました。

碧南市においても、障害者福祉の遅れが目立つ中、碧南市の単独事業としてでも、障害者福祉の充実を図ることが必要ではと感じました。また、「福祉の店うらら」のようなお、障害者が主役となるショップを市が運営することがあってもよいのではと思います。

2日目は、弘前市で、国立病院機構弘前病院と弘前市立病院の統合についてお聞きし

てきました。

弘前市が所属する津軽地域保健医療圏において、医師不足が常態化していることから中核病院整備の声が上がり、医療圏内の自治体病院の再編を目指す中、平成27年3月青森県が、医療介護総合確保推進法の成立を受け、地域医療構想を策定し、平成28年10月県の方針として、国立病院機構弘前病院（342床）と弘前市立病院（250床）の機能を統合した中核病院を、現在の国立病院機構弘前病院の敷地に整備し、国立病院機構による一体的な運営を図ることが提案された。これを受け、前市長は、市立病院の存続を目指し、市が中核病院の整備運営の主体となることを進めたが、平成30年市長選が行われ、市長が交代したため、県の方針通り、国立病院機構弘前病院に統合した中核病院の設置することとなったとのことでした。現在、統合に向けて、令和4年に新中核病院運営開始を目指しているとのことでした。

碧南市の状況とかなり違っており、参考にならない点が多くであったものの、病院経営の資金面でのことよりも、医師不足の面が大きかったことは、他人事ではないように思いました。弘前市では、弘前大学病院もあり、市立病院がなくなっても、医療に対する市民の不安はさほどではなかったようであります。碧南市においてはそのようなことはなく、単独の病院での自己完結型の医療提供がなされるようにしなければならないのではと思います。

3日目は、三沢市で、コミュニティーバス「みーばす」について視察してきました。

「みーばす」は平成24年度より本運行をしており、その特徴は、市民の需要が高い三沢駅、市役所、市立病院を軸とした100円区間を設けており、区間内は一律100円で移動できるとのことです。三沢市の南北に長い市域から、北部地域には市民病院までの往復が1,000円となる2枚切符、東部地域には市立病院までの往復が500円となる2枚切符を販売し、不公平感の解消する工夫をしているとのことでした。

運営費は、平成30年度より防衛省再編関連訓練移転等交付金を基金として積み立て、それをもとにしているとのことで、平成30年度で5千万円余りの運行費が、基金より4千万円を繰り出し、実質1千万円余りの支出となっているとのことでした。

今後の課題として、運行コースの見直し、とくに、市民ニーズに合った見直し、そして、人件費等による経費増に対する値上げの問題があるとのことでした。

碧南市における「くるくるバス」についての参考になるのではと感じるところは、市民の足を確保するという観点から言うと、ある程度の市税投入はやむを得ないものがあるという観点。コース選定にあたり、市民ニーズに合ったものにするという観点。碧南市の「くるくるバス」開設時よりかなり状況が変化し、現状に見合った運行状況なのかを踏まえ、見直しの時期が来ているのではと思われます。まず、利用状況の実態調査をし、市民ニーズに合ったものなのか、福祉バスとしての位置づけを損なうことなく、見直し・検討すべきではとの思いになりました。

以上、成果報告とします。